

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜2カ年事業計画＞

里山保全体験を通じた 障がい者雇用促進を目指す プログラム事業

里山ウェルネス研究会

①- 1 地域課題の整理

■ 地域の状況や課題背景

長野県飯山市は、長野県の最北に位置し、西側の新潟県との県境には総延長約80kmの信越トレイルが連なり、緑豊かな自然に包まれている。「母の森・神の森」と名付けられており、森林セラピー基地も存在する。また、この地域は過疎化・高齢化に伴い、里山の整備をする人が減っている上に、豪雪地域ということもあり、年間を通して森林整備を行うことができず、冬の期間、林家や林業従事者の収入が無くなってしまうという課題を抱えています。

併せて飯山市では平成19年3月に飯山市障害者計画（平成18年度～平成23年度）を策定し、障がい者施策の総合的推進を図ってきましたが、地域で暮らし続けるためのサポート体制、災害時の障がい者の避難や避難場所の確保、就労支援においては、実習先の確保等が課題になっています。

地域の担い手不足の課題が里山保全と木材利用にも大きく影響しており、自然あふれるこの地に、林家及び林業従事者と障がい者の取組（作業）をあわせることで、課題を同時に解決することが持続可能な地域づくりにつながることを期待しています。

■ 何と何の地域課題の解決に取り組むか

① 森林保全のために間伐された木材利用が進まない

② 障がい者雇用支援の不足

③ 冬期の林家及び林業従事者等の収入減少

② 事業の整理 (同時解決マップ)

最終
目標

【解決した地域の状態】
 ・木材利用による、地域内の人々と障がい者が雇用、社会復帰できる仕組み、場所を作ることができ、里山保全だけではなく、様々な分野で障がい者も働きやすく、住みやすい地域になる。林業と障がい者雇用を活用した林福連携、SDGsの全国モデルとなる。



この取組 (5年間)
で何をを目指すか

・ログファイヤー (間伐材を活用した丸太ローソク) を中心とした地域木材を有効した製品を、新しい地域ブランドのとして全国へ展開する。

・住民と障がい者を繋ぐ取り組みにより、地域住民の参画が増え、行政機関からの認定とサポートが充実する。

・里山保全から生まれた地域木材を活用した製品を生み出し、体験会の開催や新たな収入源とする取組が増える。

2か年の
成果目標

・製品 (木材)、福祉、林業のそれぞれの役割と価値を明確化させ、整理し、経済的な指標を作成する。

・ログファイヤーを製品として確立させ、地域住民が木材に触れる回数や体験会に参加する割合が増える。

・林業と障がい者雇用を活用したプログラムを完成させ、県内へ発信する。また、いいやま里の家を林福の活動拠点として確立させる。

・セミナーや啓発物をととして、林業や福祉 (障がい者雇用) に対する理解が広がる。



取組の
アイデア

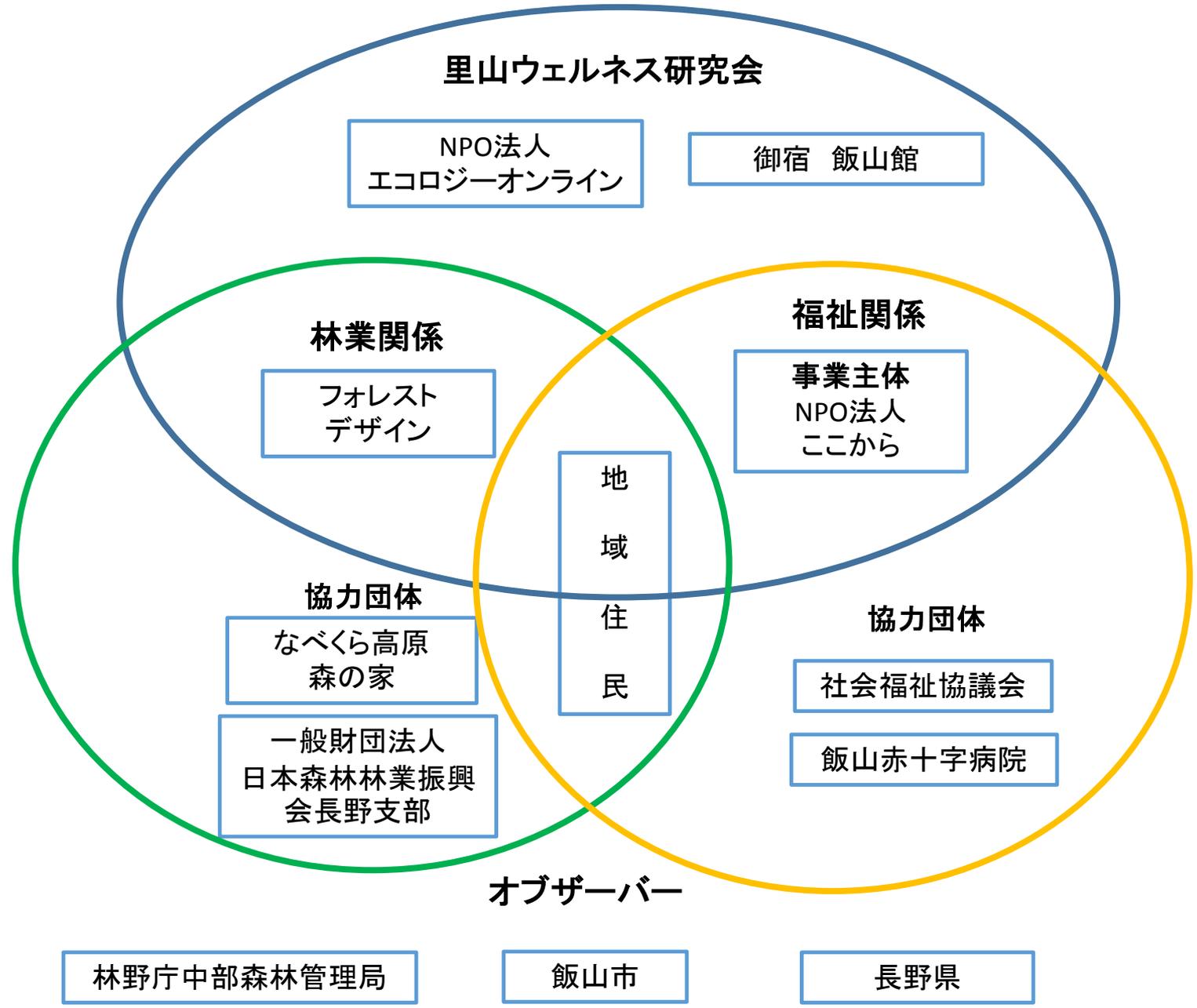
・飯山特産の木材を活用した林業・福祉の林福連携による地域づくりの実現を目指すプログラムの開発し、デモンストレーションを実施する。活動をPRする動画やポスター等も作成する。

・ログファイヤーなど木材加工品の企画会議を開催し、本格的な製品化を図り、その中で、女子美術大学と連携して、販売するためにパッケージを充実させる。また、大きさ等による製品試験等も実施する。

協議会を設置し、本事業に関わる協働取組関係者の役割を明確にするとともに、取組の具体的実施方法の協議等を行う。

・地域における認知度・理解度の向上と住民への関心度をあげるため、セミナーを含む報告会や実施場所で体験会を開催する、また、より活動を広げるためアンケートの実施や他地域での展開調査を行う。

③ 運営体制の整理 (ステークホルダーとの関係性)



④ 平成30年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
【取組課題①】 ・間伐された木材利用が進まない	・ログファイヤーの製品化させ、ヒアリング調査等を通して、製品としての確立をさせる。 ・燃焼試験等を通して、ログファイヤーの性能を明確化させる。
【取組課題②】 ・障がい者雇用支援の不足	・本事業の地域住民の連携を通じて、課題をより明確にし、林福連携のプログラムを確立させる。 ・他地域での調査を通して、飯山市内だけではなく、長野県内での、地域住民の新たなキーパーソンの発見を目指しつつ、地域住民の交流の場として場づくりを行う。
【取組課題③】 ・冬期の林家及び林業従事者等の収入減少	・冬期における林家及び林業従事者の作業を明確化させる。 ・連携をとおして、林家及び林業従事者の参加を増加させる。

⑤ 本事業計画の見直し

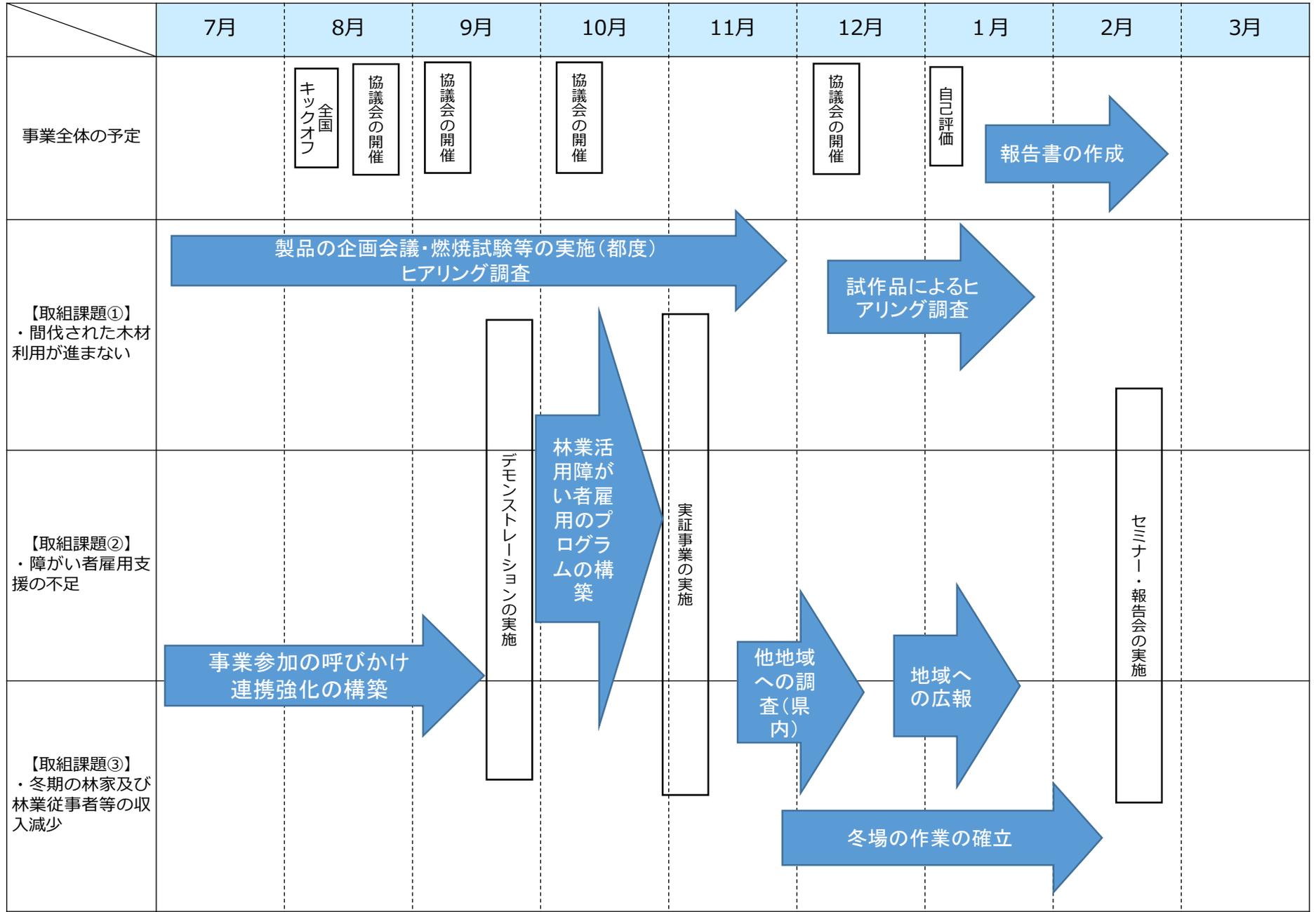
■ 事業期間内（2カ年）の到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐された木材利用が進まない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ログファイヤーを製品化させて、本格的な販売を開始させる ・ パッケージや説明書等においては、女子美術大学と連携して制作したキャラクターを活用する。 ・ 新しい形で生まれたの地域の特産品として、飯山市に認定される。
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者雇用支援の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用プログラムが確立され、県内において、同プログラムを活用して取り組む団体ができる。 ・ 飯山市及び長野県における林業、福祉が連携した雇用モデルとして承認され、行政からのサポートが充実される。 ・ いいやま里の家（フォレストデザイン）が障がい者雇用場として確立される
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬期の林家及び林業従事者等の収入減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬期の林家及び林業従事者の作業が明確化され、収入増加に繋がる。

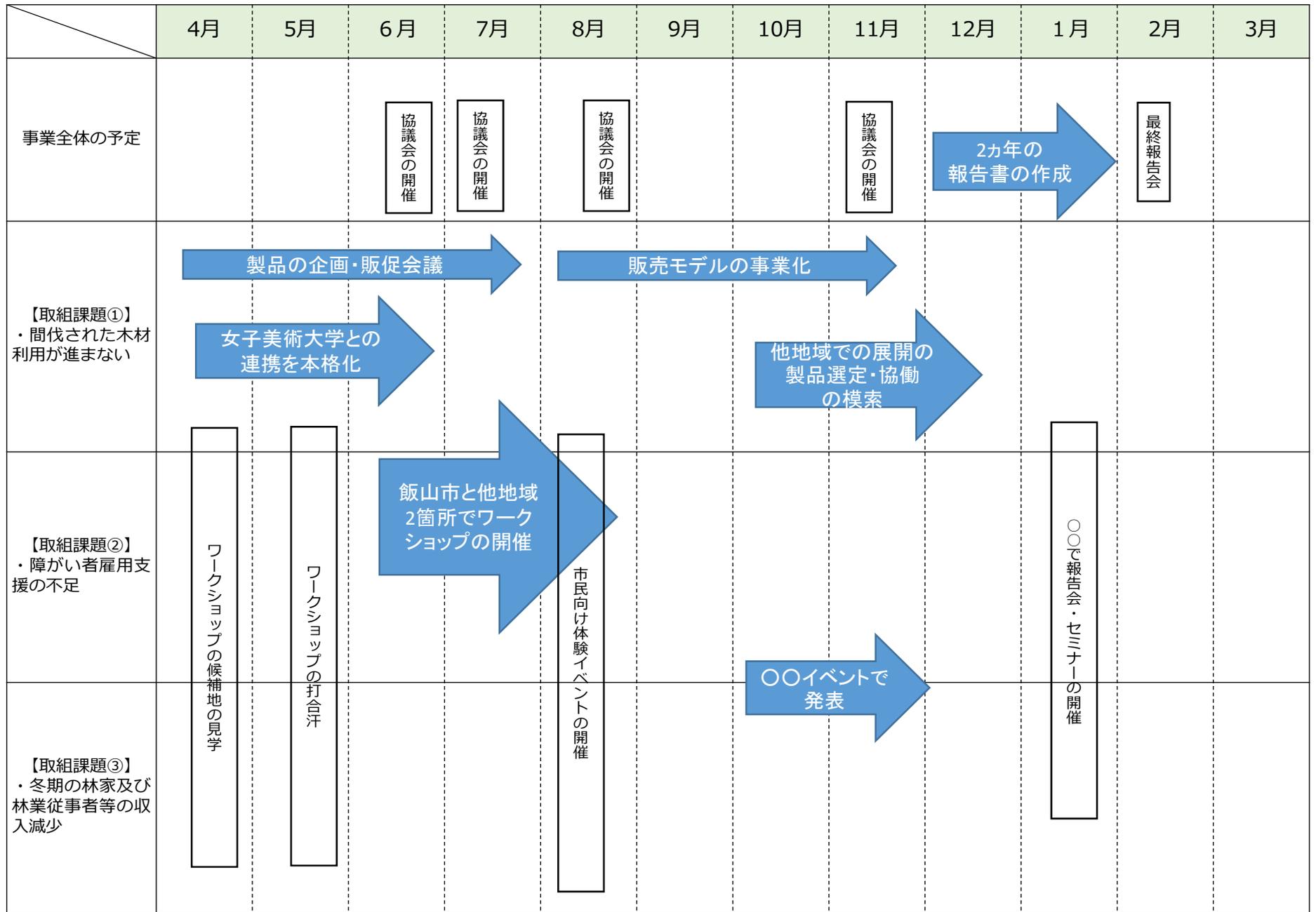
■ 5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像

取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の林業・福祉の連携から、地域木材と雇用、経済が三位一体となった新しい地域循環モデルとしての基盤となる ・ 取材や他地域からの視察が増え、地域の活性化に繋がる ・ 取り上げられた記事や映像を通して、飯山市に移り住む人が増える ・ 地域や世代を超えた交流が生まれ、多くの人々により新しい創造により、新しい事業計画が組み立てられる。 ・ 同団体が中心となり、SDGs、林福連携のモデル地域としての研修の場として活動が広がる。

⑥- 1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）



⑥-2 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）



⑦ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・協働主体をはじめ、複数の県をまたぎ、各ステークホルダーがそれぞれの仕事や他の活動等を抱えていることから、効率的・効果的な会議の運営必要である。
- ・本取組の持続性について、行政からの支援やサポートを受ける場合、法人化が必須な場合もあり、本活動が長野県の事業にも関わらず、本事業の代表団体は栃木県の団体であることから、新しい雇用を生み出すためにも、長野県に所在地を置く団体の参加を増やし、事務局運営の体制を整える必要もある。
- ・地域住民の多くが高齢者であり、インターネットなどの電子媒体による情報周知の有効性が低いことである。そのため、飯山市や県、社会福祉協議会等の広報誌の有効活用が考えられる。この点においては、取組を進めながら、行政と協力して進めていく。

■ その他、留意事項などがあればお書きください

・